

令和8年度 アオコ情報（河川 No. 15）

9月8日に実施した調査の結果についてお知らせします。

- フィコシアニン濃度^{※1}の最大値は、新川でアオコレベル2相当^{※2}、備前川でアオコレベル3相当、土浦沖合でアオコレベル3相当でした。

新川、備前川及び土浦沖合のアオコレベル

<新川>

- ・ 神天橋及び新港橋でアオコレベル0相当（フィコシアニン濃度： $< 5 \mu\text{g/L}$ ）、新川河口沖でアオコレベル2相当（フィコシアニン濃度： $202 \mu\text{g/L}$ ）でした。

<備前川>

- ・ 岩田橋及び竹中橋でアオコレベル0相当（フィコシアニン濃度： $< 5 \mu\text{g/L}$ ）、備前川河口沖でアオコレベル3相当（フィコシアニン濃度： $1110 \mu\text{g/L}$ ）でした。

<土浦沖合>

- ・ 土浦沖合①でアオコレベル1相当（フィコシアニン濃度： $119 \mu\text{g/L}$ ）、土浦沖合②でアオコレベル3相当（フィコシアニン濃度： $1860 \mu\text{g/L}$ ）でした。

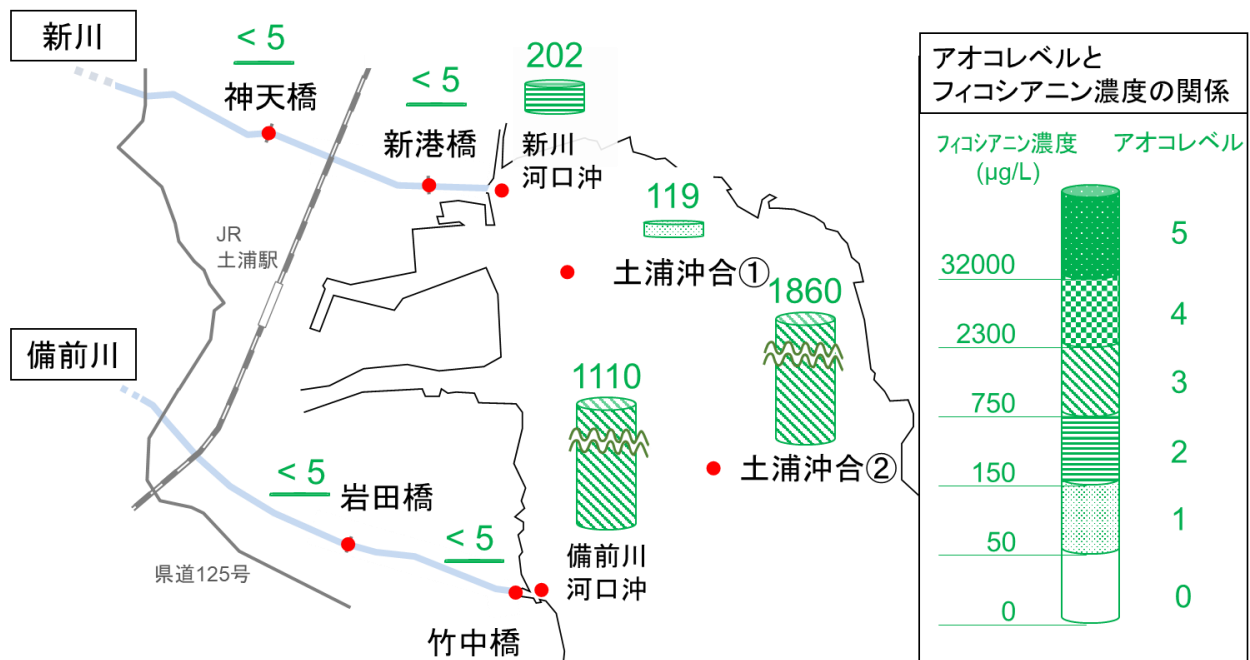


図1 フィコシアニン濃度の分布

※1 フィコシアニン

アオコの原因となる植物プランクトン（藍藻類）に含まれている色素です。フィコシアニン濃度はアオコの現存量と一定の相関があるため、アオコ現存量の目安になると考えられています。

※2 アオコレベル

アオコの発生状況を視覚的に把握するための指標です（参考：国土交通省霞ヶ浦河川事務所 HP: <http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00313.html>）。フィコシアニン濃度は、アオコレベル1で $50 \mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル2で $150 \mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル3で $750 \mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル4で $2300 \mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル5で $32000 \mu\text{g/L}$ 程度です（小日向ら, 2012）。各レベルの写真は、別紙に掲載しています。

● 調査結果の詳細

表 調査結果

	新 川			備前川			土浦沖合	
	神天橋	新港橋	河口沖	岩田橋	竹中橋	河口沖	①	②
採水時刻	9月8日	9月8日	9月8日	9月8日	9月8日	9月8日	9月8日	9月8日
	10:24	10:12	9:50	10:43	10:57	9:21	9:43	9:33
水温 (°C)	24.4	25.6	25.4	24.8	24.6	24.5	25.5	25.0
pH	8.0	8.2	8.3	7.9	7.9	8.8	8.5	8.5
EC (mS/m)	14.6	25.9	23.8	12.8	12.3	16.8	23.9	23.9
透視度 (cm)	30	> 50	32	26	21	13	24	8
フィコシアニン (μg/L)	< 5	< 5	202	< 5	< 5	1110	119	1860
クロロフィル a (μg/L)	6	< 5	76	9	9	464	39	1120

● (参考) アオコレベル (https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000042117.pdf)

